

ポルトガル月報

2012年8月号

(本報は当館が報道等公開情報より取りまとめたものです)

在ポルトガル日本国大使館

主要ニュース

コエーリョ社会民主党 (PSD) 党首 (首相) による同党支持者集会における演説 (14日)

本年第2四半期のGDP成長率 (速報値) 及び失業率 (16日)

トロイカ調査団による第5回四半期定期評価作業の開始 (28日)

内政

コエーリョ社会民主党 (PSD) 党首 (首相) による同党支持者集会における演説 (14日)

コエーリョ PSD 党首 (首相) は、当国南部アルガルヴェ地方のクアルテイラで開催された同党支持者集会で演説を行い、ポルトガルは今や危機を脱しつつあり、2013年には経済を安定化させ、回復に向けた準備の年となる旨述べた。また、財政赤字目標を達成するため、夏期及びクリスマス休暇手当の削減に相当する代替案 (注) の重要性に言及し、容易なことではないが、しかるべき時に自分自身 (コエーリョ党首) が発表すると語った。

(注) 政府は、本年度予算から公務員と年金生活者を対象に、夏期及びクリスマス休暇手当の削減を実施しているが、7月5日、憲法裁判所から本件に関し違憲判断が下され、来年度以降の実施が不可能となった。

ユーロソングーゼン社による世論調査 (18日)

当地週刊「エスプレッソ」紙によると、ユーロソングーゼン社の世論調査 (実施期間: 8月9~14日) で、与党・社会民主党 (PSD) の支持率は、前月より0.5ポイント低い34.1%となり、PSDと連立を組む民衆党 (CDS/PP) は10.1%を維持した。他方、最大野党・社会党 (PS) の支持率は、0.5ポイント上昇して33.0%となった。なお、主な政治家別の支持率 (支持と不支持との差) では、ポルトス外相14.1% (+1.2)、セゲーロPS書記長13.2% (+0.9)、ロウサン左翼連合 (BE) 代表5.5% (+0.3)、

ジェロニモ・デ・ソウザ共産党 (PCP) 書記長4.4% (-2.2)、カヴァコ・シルヴァ大統領2.6% (+1.6)、コエーリョ首相2.6% (-1.7) の順であった。

[政党別支持率] (括弧内は前月との比較)

社会民主党 (PSD)	34.1% (-0.5)
社会党 (PS)	33.0% (+0.5)
民衆党 (CDS/PP)	10.1% (----)
統一民主連合 (CDU)	8.8% (+0.1)
左翼連合 (BE)	6.6% (-0.3)

外交

シリア情勢に関する外務省声明 (7日)

外務省は、ヒジャブ・シリア首相によるアサド政権からの離反を受け、声明を発出した。同声明で、ポルトガル政府は、国内外での孤立を深めつつあるアサド政権に対し、国連安保理を初めとする国際社会は受け身の対応を続けてはならず、敵対行為の停止、アサド政権の退陣、移行政府の樹立に向けたプロセス開始が唯一の解決策である旨表明した。また、ポルトガル政府として、シリアにおける和平回復及び中東の安定化を見据え、国連安保理のメンバー各国と共に問題解決に取り組む姿勢を改めて強調した。

ポルトス外相のモザンビーク訪問 (27~28日)

ポルトス外相は、モザンビークの首都マプトで開催された国際見本市 (27日~9月2日) を訪問し、ポルトガル人企業家らに向けて、モザンビークは極めて

重要な天然資源の発見により、アフリカ大陸で歴史的な成功を収めている旨述べた。また、ポルトガル企業は長期的な視野を持ち、成長過程にあるモザンビークとのパートナーシップを一層育まなければならないと語った。なお、ポルトガス外相はアルマンド・ゲブーザ・モザンビーク大統領と面会し、本イベント最大規模となる140社余りのポルトガル企業が出展したパビリオンを案内・紹介した。

ヘルヴァス国会担当相の東ティモール訪問(28~30日)

ヘルヴァス国会担当相は東ティモールの首都ディリを訪問し、同国独立の是非を問うた国民投票の実施から13周年となる記念式典に出席し、また、シャナナ・グスマン首相、ルアク大統領、グテーレス国会議長らとの会談、通信分野におけるプロトコール署名等を行った。ヘルヴァス国会担当相は、両国間関係は歴史的・言語的繋がりのみならず、ポルトガル語圏諸国共同体(CPLP)を踏まえつつ、一層幅広い視野を持って共に発展する必要性について述べた。さらに、ポルトガルは東ティモールの教育や言語面で重要な役割を担っている点も強調した。

また、同国会担当相は、時期は明言しなかったものの、コエーリョ首相による東ティモール訪問が計画中である旨言及した。なお、本年1月以降で東ティモールを訪問したポルトガルの閣僚は、今回のヘルヴァス国会担当相を含めて4人である。

コエーリョ首相のパラリンピック開会式出席(29日)

コエーリョ首相は、ロンドンを訪問し、パラリンピック開会式に出席した。政府発表(同日付)によると、同首相は国が困難に直面する中、危機を乗り越えるためにスポーツを通じた国民への激励と選手の成功を期待する旨述べた。なお、ポルトガルの首相がパラリンピック開会式に出席したのは、今回が初めてのことである。

ポルトガス外相のカーボヴェルデ訪問(29日)

ポルトガス外相は、カーボヴェルデの首都プライアでネーヴェス同国首相と会談し、経済(貿易)、文化、

科学分野等における二国間関係のさらなる強化を見据え、本年中にも首脳会談を開催する旨明らかにした。また、ポルトガス外相は、ジョルジ・ボルジェス対外関係大臣(外相)との会談及び夕食会を行った他、3カ年協力推進プログラムや外交官養成分野に係る協定等に署名をした。

経済

欧州各国における6月の小売売上高指数(3日)

ユーロスタット(EU統計局)は、欧州各国における6月の小売売上高指数を発表したところ、ポルトガルは、前月比0.2%、前年同月比5.3%であった。

[最近3カ月・前年同月の小売売上高指数推移(%)]

	4月	5月	6月	前年6月
ポルトガル	2.9	3.4	0.2	5.3
ユーロ圏	1.3	0.8	0.1	1.2
EU	1.4	0.8	0.3	0.7

6月の貿易収支(9日)

国立統計院(INE)は、本年6月の貿易収支を発表したところ、輸出39億1900万ユーロ(前年同月比9.2ポイント増)、輸入44億9600万ユーロ(2.4ポイント)であった。また、第2四半期(4~6月)では、輸出114億6070万ユーロ(前年同期比6.8ポイント増)、輸入138億1240万ユーロ(同8.3ポイント)で、貿易収支23億5180万ユーロとなっている。輸出入の主な品目別伸び率(前年同月比)は、以下のとおり。

輸出品目別：燃料・潤滑剤(+26.5%)、機械及び資本財(+22.6%)、食料品・飲料(+6.2%)
 輸入品目別：輸送機器関連品(27.1%)、機械及び資本財(7.9%)

[第2四半期(本年4月~6月)の貿易収支推移]

	4月	5月	6月	合計
輸出額	3539	4003	3919	11460.7
前年同月比(%)	2.9	8.2	9.2	6.8
輸入額	4374	4943	4496	13812.4
前年同月比(%)	12.7	9.1	2.4	8.3
貿易赤字額	835	940	577	2351.8

(注) 輸出入及び貿易赤字額の単位は百万ユーロ。

第2四半期のGDP成長率：速報値(16日)

国立統計院(INE)は、第2四半期の実質GDP成長率(速報値)を発表したところ、前期比 1.2%、前年同期比 3.3%であった。INEによると、個人消費及び投資の冷え込みに加え、輸出の減速もマイナス成長の要因と分析されている。なお、同日、ユーロスタット(EU統計局)が発表したユーロ圏17カ国及びEU27カ国における本年第2四半期のGDP成長率(速報値)は、前期比で各々 0.2%；

0.2%、前年同期比 0.4%； 0.2%であった。

第2四半期の失業率(16日)

国立統計院(INE)は、第2四半期の失業率を発表したところ、1983年第2四半期の調査開始以来で最高となる15.0%を記録し、失業者総数は82万6900人(前年同期比22.5%増)に達した。

7月のインフレ率：2.8%(16日)

ユーロスタット(EU統計局)はインフレ率(消費者物価上昇率)を発表し、ポルトガルは2.8%(前月比0.1ポイント増)であった。また、ユーロ圏17カ国及びEU27カ国は前月同様に各々2.4%(暫定値)、2.5%(暫定値)であった。なお、インフレ率の上位は、ハンガリー5.7%、マルタ4.2%、エストニア4.1%。下位は、スウェーデン0.7%、ギリシャ0.9%、ドイツ等1.9%であった。

[最近3カ月及び前年同月のインフレ率推移(%)]

	5月	6月	7月	前年7月
ポルトガル	2.7	2.7	2.8	3.0
ユーロ圏	2.4	2.4	2.4p	2.6
EU	2.5	2.5r	2.5p	2.9

p = 暫定値 r = 改定値

公職統計報告書(15日)

財務省(行政雇用総局)は、トロイカ合意による国と地方の行政改革に関し、本年第2四半期の公職統計報告書を発表した。同報告書によると、2012年6月末時点で、公務員総数は60万5212人(昨年12月末比1.4%)。その内、国家公務員は

45万2127人(同1.3%)、自治州及び地方公務員は15万3085人(同1.6%)であった。また、公務員全体の平均基本給(本年4月時点)は1394.4ユーロ(昨年10月比0.5%)であり、国家公務員は1532.5ユーロ(同0.5%)、自治州及び地方公務員は1001.8ユーロ(同0.0%)となっている。

トロイカによる対ポルトガル融資状況(21日)

ポルトガル国庫公債管理庁(IGCP)の月報(8月号)によると、トロイカによる対ポルトガル融資状況は、以下のとおり。

	機関(満期)	融資日	融資額	金利
第1回融資	IMF(7.25年)	11.5.24	6308	変動
	EFSM(10年)	11.5.31	1750	3.50%
	EFSM(5年)	11.6.1	4750	2.75%
	EFSF(10年)	11.6.22	4602	3.375%
	EFSF(5年)	11.6.29	2525	2.75%
第2回融資	IMF(7.25年)	11.9.14	3972	変動
	EFSM(10年)	11.9.21	5000	2.75%
	EFSM(15年)	11.9.29	2000	3.00%
	EFSM(7年)	11.10.6	600	2.375%
第3回融資	IMF(7.25年)	11.12.21	2867	変動
	EFSF(3年*)	12.1.12	1730	1.725%
	EFSM(30年)	12.1.16	1500	3.75%
	EFSF(0.4年*)	12.3.15	995**	0.29%
	EFSF(14年)	12.7.19	1020**	変動
第4回融資	IMF(7.25年)	12.4.12	5210	変動
	EFSM(26年)	12.4.24	1800	3.38%
	EFSM(10年)	12.5.4	2700	2.75%
	EFSF(20年)	12.5.30	5200	変動
第5回融資	EFSF(26年)	12.7.17	2600	変動
	IMF(7.25年)	12.8.6	1460	変動

(融資額(単位):百万ユーロ)

*償還時に再融資される際、最大15年まで延長予定。

**昨年12月及び本年1月に発行したEFSF債の

再融資分。

本年1～7月の財政収支(23日)

財務省は、本年1～7月の財政収支を発表し、歳入合計231億6520万ユーロ(前年同期比11.4%)、歳出合計271億4510億ユーロ(同0.7%)で、財政赤字は39億7990万ユーロであった。

	2011年 (1-7月)	2012年 (1-7月)	前年比 (%)
経常歳入	20,520.7	19,943.3	2.8
税収	18,418.1	17,778.0	3.5
直接税	7,379.7	7,262.4	1.6
間接税	11,038.4	10,515.6	4.7
その他歳入	2,102.6	2,165.3	3.0
資本歳入	265.1	3,221.9	1,115.4
歳入合計	20,785.8	23,165.2	11.4
経常歳出	25,417.6	25,629.4	0.8
資本歳出	1,931.4	1,515.7	21.5
歳出合計	27,349.0	27,145.1	0.7
財政収支	6,563.2	3,979.9	

(単位：百万ユーロ)

トロイカ調査団による第5回四半期定期評価作業の開始(28日)

欧州委員会(EC)、欧州中央銀行(ECB)、IMFの専門家らで構成されるトロイカ調査団がリスボンを訪問し、第5回四半期定期評価作業を開始した。本作業は約2週間かけて行われる予定で、9月上旬に発表される結果で肯定的評価を得れば、ポルトガル政府は約43億ユーロの融資を承認されることになる。

7月の失業率(31日)

ユーロスタット(EU統計局)は、欧州各国における7月の失業率を発表し、ポルトガルは15.7%(前月比同様)、若年失業率(25歳以下)は36.4%(前月比0.8ポイント)であった。

[最近3カ月・前年同月の失業率推移(%)]

	5月	6月	7月	前年7月
ポルトガル	15.5	15.7	15.7	12.5
ユーロ圏	11.2	11.3	11.3	10.1

EU	10.4	10.4	10.4	9.6
----	------	------	------	-----

社会・その他

リスボン大学及びリスボン工科大学の統合に向けた協定の署名(2日)

ヌーノ・クラート教育科学相は、ノヴォア・リスボン大学学長及びセーラ・リスボン工科大学学長らと共に、両大学の統合に向けた協定に署名した。同省の発表(2日付)によると本年9月に統合に関する閣議決定を行い、2013年5月までに新大学の定款承認を行う他、執行部選出のプロセスを開始する予定となっている。

語学学校の夏期集中コースにおける生徒数増加(6日)

「ディアリオ・デ・ノティシアス」紙によると、景気後退による失業率の悪化や、それに伴う海外での就職を目的に、語学学校の夏期集中コースを受講する生徒数が増加しているという。言語別では、英語とドイツ語の学習者が顕著に増加しており、語学学校の中には生徒数で前年比40%増に達するところもある。看護師、医師、弁護士、エンジニア等の需要が高く、新たに外国語を学び始める他、既習言語のブラッシュアップも大きな動機の一つとなっている。また、通年コースでは、中国語、ロシア語、アラビア語、日本語等も人気が高い。

ロンドン五輪の男子スプリント・カヤック・ペア1000Mにおける銀メダル獲得(8日)

政府(8日付)は、ロンドン五輪の男子スプリント・カヤック・ペア1000M決勝で、銀メダルを獲得したフェルナンド・ピメンタ及びエマヌエル・シルヴァ両選手に対し、功績を称えるメッセージを発出した。同種目におけるポルトガルのメダル獲得は初の快挙であり、当国スポーツ界の発展に寄与する他、若者のスポーツ振興に好影響をもたらすものである旨言及した。(なお、今大会におけるポルトガルのメダル獲得は本件のみ)

ポルトガルにおける私立及び公立大学の学生数(16日)

「プブリコ」紙によると、国内私立大学の学生数は2000年度に11万4173人であったが、2010年度は8万8290人となり、この10年間で2万5883人減少した。一方、公立大学の学生数は、2000年度の27万3530人から、2010年度には30万8000人となり、3万4448人増加した。

携帯電話の使用状況(19日)

「ディアリオ・デ・ノティシアス」紙によると、マーケット社(市場調査会社)による調査で、ポルトガルに居住する10歳以上の住民の内、92%が携帯電話を所持していることが分かった(2011年12月時点)。年齢層25~44歳での所有率は99%で他の年齢層の中で最も高く、64歳以上では69.9%で最も低かった。

ポルトガルにおける献血状況(27日)

「プブリコ」紙によると、国立血液移植研究所は本年1~7月までの献血量が前年同期比で15%減であったと発表した。減少の理由については、本年初めから献血者に対する公的医療機関(地域医療センター除く)での診療費に関する減免措置が廃止されたことも影響しているという。なお、同研究所では、献血の呼びかけや、ショッピングセンター等の人の集まる場所で献血活動を行っている。